

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600979		
法人名	株式会社吉兆		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	久留米市荒木町白口2343-1		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果確定日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は住宅街の中に位置し、運営者は長年地域の活動や地域役員として「人が人として生きる喜びを心に感じながら共に暮らせる時間と場所作り」を理念とし、地域に根ざした事業所作りに尽力している。また、運営者は施設の隣に住居を構え、毎日朝早くからホームと関わりながら、緊急時には管理者と共に迅速な連絡、対応が行えるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来の理念を目にふれやすい場所に掲示し、会議などで事例を通じて理念の具現化に努めている。詳細に実施したアセスメント表を整備し、入居者の日々の変化などをタイムリーにチャットで全職員で共有し、「人が人として喜びを心に感じながら、共に暮らせる時間や場づくり」を展開している。24時間オンコールの協力医療機関や系列の訪問看護と連携し、看取りに関わった3名の家族から「最期までここで見て頂きありがとうございます」との謝辞があった。運営者は、自治会加入や月1回地域の馴染みの方々と公園清掃を継続し、災害時には多くの協力者を得ている。法人内で接遇やマナー、コンプライアンスに関する研修を継続し、調査日も3人の職員がリモートで認知症実践者研修を受講するなど、入居者ファーストの関わりや認知症の理解を促進し、今後も地域に密着したサービスが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

 ユニット/  
事業所名 1F/グループホームふきのとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やホール内に掲示しており常時見えるようになっており、会議の際も理念の実現と共有に努めている	開所以来の理念を目にふれやすい場所に掲示し、会議などで事例を通じて理念の具現化に努めている。10時や15時のお茶の時間は、理念を実感する時間や場所となっていると職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の敬老会への参加や子供会のおみこしを見学していたが、コロナ禍により交流ができていない	自治会加入が継続し、コロナ禍で外出を制限する中、運営者は月1回地域の馴染みの方々と公園清掃を継続している。開所から21年が経過し、ホーム横に自宅のある運営者の多分野にわたる地域貢献は、多くの理解者や協力者を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍になってからはできていないが、例年、職場体験実習生を受け入れ認知症の方への理解や支援方法について広める機会を持っていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議の開催がなされていないが月に2回、職員間でカンファレンスを行っており、サービス向上に努めている	昨今の状況から運営推進会議は開催されていないが、2ヶ月毎に職員のみで会議を開催し、会議録は玄関で公表している。	運営推進会議の設置目的に勘案し、円滑に会議を再開するためにも、会議メンバーや家族への状況報告や意見の集約を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度連絡したりして連携できるよう努めている	居室の空き情報を地域包括支援センターに提供したり、服薬漏れや誤嚥に関する報告書を担当係の提出するなど、日頃から連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修を通じて理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。止む得ない場合は十分に検討を重ねる必要に応じては必ずご家族様への説明、同意の上実施し、早期に解決できるための検討会議も開くようにしている	身体拘束に関する研修や会議を開催し、身体拘束の具体的内容や止むを得ず行う場合の原則について、全職員に周知している。止むを得ない身体拘束の事例はなく、遠くから大きな声の呼びかけなどは、職員同士で注意したり、運営者が朝の申し送り時に語尾のトーンを下げると言葉が柔らかくなることなどを話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行っており職員が理解し、虐待が見過ごされることがないように職員1人1人の声を大切に話し合いを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修やカンファレンス時に話題に触れ日々学習と活用できるよう努めている	入居前からの保佐人に当該入居者の生活や精神状況を説明し、お金がないとの不安解消の協力をお願いしている。地域包括支援センターと密に情報を交換しながら、制度活用を検討している入居者もある。	今後もさらに多様な家族構成が予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いに関する研修を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や事業者が入り契約・解約をわかりやすく説明できるようにし理解できるように丁寧に説明している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所持や電話にて日常を報告し意見が出やすいよう努めている	令和3年度の介護保険報酬改正に伴う利用料等の変更を全家族に説明し、理解を得ている。家族来所時や電話で、入居者の暮らしぶりなどを報告し、意見の表出を促しているが特段の意見はない。	新型コロナウイルス感染収束が予測できない中、入居者の暮らしぶりやホームからのお願ひ、ユニット全体や個別写真などを掲載したホーム便り等の作成で、更なる意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やアンケート、チャットワークの活用で意見や提案をする場面がある	月2回の定例会議は勤務内とされ、入浴介助のスケジュールなどを見直している。運営者は職員に率直な意見を出してほしいと敢えて定例会議には出席せず、職員同士での工夫や改善をと話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等を通じて職員の声を聴き早期に問題解決ができるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、国籍、年齢問わず関わる人、専門職としての意識などを踏まえた採用を行っている	法人内で異動した職員もあり、ハローワークや職員の口コミで、24歳～63歳までの男女の職員が勤務している。家族状況で夜勤が出来ない職員もあるが、試用期間でスキルなどを見極めながら夜勤帯のシフトを組んでいる。調査日も事務室で3人の職員がリモートで認知症実践者研修を受講したり、法人内で定期的な研修を実施し、人材育成に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修を通じて学び、実践している	法人内で接遇やマナー、コンプライアンスに関する研修を継続し、認知症の理解や入居者ファーストの関りに努めている。何年も前であるが、つなぎ服なしでもおむつ外しがないと気づき、つなぎ服の使用を止めるきっかけを作った職員もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、off-JT研修を職員全員が受講し日々の業務に活かしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、交流ができていない		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談などで関わりを持つことで不安の軽減に務めるとともに、入所されたあともしっかりとした関わり合いの下で関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスやチャットワーク等を活用しご家族の不安や要望を共有するようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状や状態を把握しどのように反映すればいいかをチームで検討しより良いサービスに努める体制ができている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や袋をたたんでいただいたりと、お手伝いを通じて相互援助の関係性を作るよう努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンス等で話し合いを持ち、時にはご家族様へ協力していただき、共に利用者様を支えるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより制限されていた外出や面会はやっと出来るようになってきたものの、ご家族以外はまだ困難である	家族との関係継続を支援したいと、先日より面会は家族のみで人数や面会時間、居室でとお願いしているが、緊急事態宣言が発動されれば、現状の面会や家族と馴染みの美容院に行くことなどが難しくなると施設長は話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつは出来るだけフロアにて摂っていただいたり、気の合う人同士や苦手を把握した上で心地よく過ごしていただけるようフォロー、サポートしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、いつでも相談していただけるような関係作りに努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切に一人一人の思いが出せるよう努めてはいるが思うようにコミュニケーションが取れない時もあり職員の連携を心がけている	詳細に実施したアセスメント表を整備し、個々の入居者の入居に至る経緯や生活歴、既往症、服薬状況、日々の変化などを、タイムリーにチャットで全職員で共有し、更なる思いや意向に把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設長やケアマネージャーを通してカンファレンスやチャットワークで共有するよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で共有すると共にチャットワークにて共有して特に変化のある方は一日の様子を把握するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファで話し合い現状に適した計画を制作している 月毎の会議や日中のミニカンファレンスでしっかりと話す時間を設けている	ケアカンファレンスで職員の気づきなどを話し合い、現状に即した介護計画の作成や見直しをしている。介護計画作成担当者のケアマネージャーは、課題解決ではなく意向を達成する介護計画作成を目指している。	理念である「人が人として喜びを心に感じながら、共に暮らせる時間や場づくり」を具現化するために、意向を達成する具体的な目標やケアが明記された計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を個々の記録やチャットワークに残し常に情報を共有し今後の見直しに活かせるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況をご家族との話し合いでかかりつけ医の診療が受けられるように支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が難しい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長を始め職員と家族との話し合いでかかりつけ医の診療が受けられるように支援しており、チャットワークを活用し入居者の状態を常に把握し、かかりつけ医へ報告している	協力医療機関から訪問診療を受ける入居者がほとんどで、希望者のみ歯科の訪問診療を受けている。専門医療機関受診も家族の状況に応じて職員が支援し、法人系列の訪問看護と連携し、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や心の変化を看護師に報告し早めの対応ができるよう心掛けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや医療従事者、家族と密に情報共有をしており退院後も安心して生活できるよう、介護士と医療関係者が協力して支援に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との連携を行い家族との意向を職員で共有しこれからの支援に取り組むようにしている	24時間オンコールの協力医療機関や系列の訪問看護と連携し、3名の看取りに関わっている。中には家族と看取りに関する話し合いがまとまらないまま逝去された方もあるが、全家族から「最期までここで見て頂きありがとう」との謝辞があった。現在、全入居者がホームでの看取りを希望され、随時意向を確認しながら今後も看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどの見直しを行っていきながら日々万が一に備えるよう努めている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害時の避難訓練が定期的に担当を中心に行われている	年2回日中を想定した避難訓練を実施している。系列施設は近く、短時間で駆け付けれる職員も多いが、運営者は日頃から地域の50数名の方々に協力をお願いしている。各入居者のキーパーソンの連絡先や服薬などの情報や職員の緊急連絡網をチャットで整備し、食料品や感染予防グッズを備蓄している。	ホーム1・2階にユニットが開所していることから、日中だけでなく夜間を想定した避難訓練を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には親しみやすい方言を使ったり、人生の先輩として敬語で声をかけたりと雰囲気に応じた言葉使いを心がけている	○○さんと氏名で呼称し、日々の申し送りは入居者の個人情報に配慮して居室番号を使用している。昼食後、女子会さながら笑顔で会話している入居者から、穏やかな生活が伺えた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の想いや願いを表現して頂けるようにできるだけコミュニケーションを心がけるようにし、それぞれ自己決定と自己実現につなげられるように働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様ファーストになれる関りを探りながら支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方は選んでいただいたり、入浴後の化粧水等ご本人に任せている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の心身の状況に応じて、食事の盛り付けや、後片付けを一緒に行っている	各ユニットとも職員の声かけでお盆やテーブルを拭く入居者もある。食事は業者搬入であるが、レクリエーションで作ったカレーなどやホットケーキをデコレーションした誕生日ケーキは好評である。今後は定期的に入居者の希望の献立を、楽しみながら一緒に調理することを検討予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分制限に関しては職員の連携を密にし声かけや介助によりできるだけ確保できるようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科訪問診療があり、口腔ケアの指導を受けており、利用者様1人1人の残存機能を活かしながら個々に応じた口腔ケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録に目を通し一人一人のパターンに合わせてトイレの声かけや介助に心がけ、できる限りトイレで排泄してもらえるよう努めている	各ユニットに3ヶ所トイレが設置され、排泄のサインや時間毎にトイレに誘導しているが、日中だけでなく、夜間も立位保持が可能であればトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医と相談して必要に応じた内服調整のほか水分提供の工夫などを行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その人にあった入浴介助といった面は身体機能と浴後の状況によってできていないことも増えているが、ゆっくりお話をしたり、できるだけ個別性を大切に楽しく入浴できるように努めている	入浴を楽しめるように入浴剤を使用したり、好みシャンプーなどを持ち込む入居者もあり、ゆっくりと週3回を目途に入浴を支援している。身体状況に応じて2人体制で支援したり、シャワー浴の入居者もある。同性介助の希望はないが、洗い方が上手と指名される職員もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人心身の状況に応じて休憩を促している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋までしっかり確認すると共に変更や改善点については各自が十分に気を付けるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中でできることは継続して頂きながら関わっていけるよう工夫に努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ数年はコロナ禍で外出できなかったが、最近はお家族の協力のもと外出への支援が出来る	感染者が少なくなった昨年11月は家族同行での美容院や医療機関受診、外食の制限を緩和していたが、急速な感染者数の増加で先週より中止としている。運営者は感染収束の折には、花見とか季節を味わえる外出をしたいと話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物など希望される方は買い物支援も行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り叶えられるようサポートや支援を行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に自由に座れる椅子を置くなどしたり、遮光カーテンでまぶしくないよう工夫している	2階建てのホームはシンボルカラーの緑に塗装され、遠目からも目を引いている。2階までエレベーターが設置され、加湿器などで空調を管理している。昼食後の居間は、車椅子の方が足を伸ばしたり、テーブルでうたた寝をしたり、入居者同士で談笑する姿があった。中庭に面したガラス戸前にはベンチが設置され、家族との面会場所にもなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブルとソファがあり、気の合う方とフロアでお話されたり、ソファでゆっくり過ごされたりと思い思いに過ごしていただけるような空間作りをしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物や寝具等は使い慣れた物を持ち込んでもらい入居前の生活空間、使い慣れた物の中で生活していけるように工夫している	各居室入口には表札を掲げ、どの居室も広い窓から陽光が差し込み、清掃が行届いている。車椅子利用の入居者の居室は電動ベッドが設置され、テレビや筆筒が持ち込みまれた居室もある。壁のボードにはカレンダーや絵が飾られ、家族が持参した観葉植物の水やりが日課の入居者もあり、居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りの表札を一緒に作成し居室入り口に飾るなどしている		